



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2009. 11 月号

平塚海岸のウミガメ2009

2009年は平塚海岸の3カ所でアカウミガメの産卵巣が確認されました(平塚市袖ヶ浜～千石河岸)。平塚海岸でアカウミガメの産卵とふ化が確認されたのは、昨年に続き2年連続です。また、2009年のアカウミガメの神奈川県での産卵は6件確認されていますが、うち3件が平塚海岸のものでした。

その3件のうち2件は、産卵場所が波打ち際に近く流出の危険があること、海水浴場付近にありふ化後の子ガメが海に帰る際の障害が想定される場所であることなどから、産卵巣の移植を行いました。その後台風の影響等で高波があり、元の産卵場所の砂は流出しましたが、移植の位置までは届かず、無事にふ化にまで至ったことが確認できました。

1件はふ化後、産卵巣から脱出するところに出会った方から連絡があり、産卵とふ化があったことがわかりました。脱出が午前6時前後で、すでに空は明るく、多数の鳥によって子ガメが狙われていたそうですが、発見した方たちにより波打ちぎわまで運ばれ、無事海に帰って行ったということです。

アカウミガメの産卵や脱出は、真夜中に行われることがほとんどです。また、街灯があったり、道路からの光が差し込むような、他の明かりのある場所は産卵には適しません。特に、子ガメは夜の海の明るさ(陸よりも海の方が明るい)を頼りに海に帰るので、海よりも明るい場所があると、そちらが海だと思ってしまい、上手く海に帰ることができません(子ガメに懐中電灯やフラッシュなどで一瞬光を当てただけでも、子ガメは方向感覚を見失ってしまいます)。子ガメは気温の低下を感じとって、脱出するタイミングを計っていると考えられています。そのため、まれに明るい時間に脱出してしまいうこともありますが、それは子ガメにとって危険なことです。

アカウミガメが1度に産む卵の数は100～150個程度ですが、個体によってかなり差があります。1回の産卵で産まれた卵の内、大人になれるのは1匹程度と言われています。いつの日か、今年生まれた子ガメが大きくなって、平塚の海へ無事帰ってきてくれることを願います。

さて、数は少ないものの、平塚海岸では、ウミガメに出会う可能性があるわけですが、ウミガメに出会ったときに、私たちはどうしたらいいのでしょうか?下にウミガメに出会ったときの注意点を挙げました。

●海岸でウミガメに出会ったときの注意点●

～親ガメ編～

- ウミガメに近づきすぎない。
- 大きな音を出さない。
- 懐中電灯の光を当てない。フラッシュ撮影をしない。
- 産卵後、掘り返したり、卵を持ちだしたりしない。
- 巣穴やその周りを踏み固めない。

人の気配がしたり、驚くと産卵を止めてしまいます。一旦産卵を始めると止めることはあまりありませんが、カメにとっては強いストレスになってしまいます。産卵後に卵を触るとふ化できなくなることがあります。

また、時々産卵後に疲れて眠ってしまっている親ガメが見られます。しばらくすると起きて動き出しますので、なるべくそっとしておいてあげましょう。

～子ガメ編～

- 子ガメに触らない。
- 懐中電灯の光を当てない。フラッシュ撮影をしない。

子ガメは海に帰るまでに様々なことを学習しています。可能な限り、自力で海まで戻るよう見守ってあげましょう。また、海の明るさを頼りに海に向かって行きますが、このときに地磁気などから方角を学習しているといわれています。強い光を当てられると方向感覚を失って、海に戻れないばかりか、その後の成長にも影響する可能性がありますので、懐中電灯やカメラのフラッシュには十分気をつけてください。

- 子ガメの出てきた“巣”を掘り返さない。

子ガメは成長の進んだものから順に、何日かにわたって巣穴から出てきます。十分成長してから海に帰ることが望ましいので、巣穴もそっとしておきましょう。



海に向かって歩いて行く子ガメたち
2009年8月25日午前6時ごろ
平塚市千石河岸にて(守屋ゆかり氏撮影)

平塚市博物館では平塚海岸のウミガメの情報を集めています。

もし、産卵や子ガメを見かけたら、お電話ください。電話番号0463-33-5111

秋 期
特別展

山と海を結ぶ道 —相模川・相模湾の水運—

11月29日(日)まで

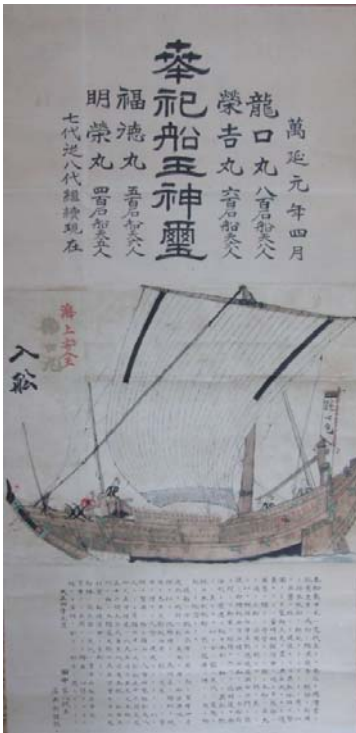
展示資料紹介—知られざる須賀の巨船

秋期特別展期間も残すところあと一ヶ月となりました。

本特別展では相模川・相模湾の水運に係る資料を展示しています。水運の要衝である須賀は火災・戦災で町が焼失したため、残された資料はごくわずかで、どれも貴重なものといえます。

写真は展示資料の一つである須賀の廻船「龍口丸」図です。龍口丸は須賀の廻船問屋であった田中家が安政4年(1857)に建造した船です。ところで、天保期(1830～1843)の地誌『新編相模国風土記稿』では須賀湊を利用する船は400石積みが限度であったとされています。しかし、この「龍口丸」は800石積みで、その巨大さは相模湾中で評判になったと記されています。ただ、あまりにも巨大だったため、明治7年(1874)真鶴の人に売却し、300石積みの船に替えたといえます。

本図によれば龍口丸は廻船業に成功した当主が「将来帆船ノ模範」とするため、巨費を投じて堅固で「装飾美ヲ尽シ」て建造したとあります。800石積の大船が須賀で使用しづらいことはわかっていたと思います。それなのに、「将来帆船ノ模範」のために「装飾美ヲ尽シ」た船をあえて作って見たというところに、往時の須賀の廻船問屋の羽振りのよさが感じられます。



龍口丸図 (個人蔵)

プラネタリウム

月へ行こう!

秋はお月見のシーズンです。お月見は虫の声を聴きながら、黄色い月をめぐる気持ちのいいひと時ですね。その月に40年前に人が降り立った、という胸躍ったことを思い出せる人は、みないい歳になってしまいました。月はガリレオが初めて望遠鏡をむけてから、いつかは人間が行ける世界であると思い続けていた夢がかなった時代でした。

アポロの月面着陸から40年。宇宙ステーションの建造も進み、宇宙に人が常時滞在している時代になりました。しかし、今は月に行くことはできません。経済的な理由が主ですが、科学的にも月の理解が進んでなかったこともあるようです。

21世紀になって、火星などへの有人探査が目標に上がって、再び月への関心が高まってきました。月へ行き来することは太陽系の遠い旅にでるための練習になるからです。

スペースシャトルが役目を終える2011年以後の実用化を目指し、ロケットの開発が始まりました。そして10年後には、月面基地が作られることになるかも。

21世紀半ばにはSF小説の世界がいよいよ実現するかもしれません。

投影期間：10月3日～11月29日

投影日：土曜日・日曜日 11:00 14:00

観覧料：100円(中学生以下無料)

企画展示「深海・相模湾に潜る」

昨年、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の広報航海として、相模湾岸の博物館・水族館の学芸員が参加し、同機構の無人潜水調査船 (ハイパードルフィン) で相模湾に潜航しました。この航海では、初島沖、熱川沖、小田原沖、相模海丘の4箇所の深海底に潜航しました。

初島沖ではおびただしいシロウリガイの群集 (水深 1170m) や初島の溶岩 (水深 800m) を、熱川沖では水深 1000 m 付近で枕状溶岩や縄状溶岩流を確認しました。

小田原沖では、水深 700m 付近で台風によって深海に押し流された葉のついた木の枝を見つけ、相模海丘では、水深 930 m 付近で玄武岩礫を多量に含む礫岩層や、相模トラフに向かう崩壊堆積物を観察しました。

深海の生物も、サンゴ・カニ・ウニ・ヒトデ・ホヤ・クラゲ・イカ・魚類など、数多く観察できました。ここでは、この潜航で収集したこうした岩石・生物試料や映像を基に、深海・相模湾の様子を紹介します。会期を以下のように分けて、1階と2階の展示室で展示します。併せて、サイエンス・セミナー「深海・相模湾八景を訪ねて」を開催しますので、多数の方のご来館をお待ちしています。



深海へ潜航する調査船・ハイパードルフィン



初島沖に生息しているシロウリガイ群集 (水深 1170 m)
(写真提供: 海洋研究開発機構)



海中の生け花・テヅルモツルの一種 (クモヒトデの仲間)
(写真提供: 海洋研究開発機構)

展示期間: 10月31日(土)～1月31日(日)

第1次: 10月31日(土)～11月8日(日) 博物館所蔵資料による展示 (1F)

第2次: 11月11日(水)～11月29日(日) JAMSTEC 借用資料による展示 (1F・2F)

第3次: 12月2日(水)～1月31日(日) JAMSTEC 借用資料による展示 (2F)

※ 寄贈品コーナーでの展示は11月29日(日)までです。

場所: 平塚市博物館 1F 展示室寄贈品コーナー及び2階情報コーナー

共催: 海洋研究開発機構

サイエンス・セミナー「深海・相模湾八景を訪ねて」

日時: 11月15日(日) 14時～16時30分

講師: 藤岡換太郎氏・馬場千尋氏 (海洋研究開発機構)・森 慎一 (平塚市博物館)

ファシリテーター: 萱場うい子 (海洋研究開発機構)

場所: 博物館講堂

内容: 14:00～14:30 深海の美と不思議を伝えるためにー広報航海ー 馬場千尋氏

14:30～15:00 深海相模湾の地形と地質 森 慎一

15:00～15:15 coffee break

15:15～16:00 相模湾八景と相模湾バイオジオツアー 藤岡換太郎氏

16:00～16:30 サイエンス・チャンネル「相模湾を探る」上映

参加: 自由

1	日	イブニングミュージアムウィーク (秋編) ~11月1日	博物館
		◎ウミガメのはなし	講堂
1	日	○旭南の石仏を訪ねて	館外・旭南地区
		○自然観察ウォーキング	土屋
		☆企画展示「深海・相模湾に潜る」 ~1月31日(日)	寄贈品コーナー 2階情報コーナー
5	木	展示解説ボランティアの会	講堂
6	金	古文書講読会	講堂
7	土	○自然教室「落ち葉で遊ぼう!」	土屋
		○自然観察ウォーキング	土屋
8	日	地質調査会	野外(雨天:科学室)
		平塚の古代を学ぶ会	講堂
12	木	石仏を調べる会	館外・上吉沢
13	金	古文書講読会	講堂
		古代生活実験室	科学室
14	土	相模川の生い立ちを探る会	館外・相模原市 (雨天:特研究室)
15	日	◎ろばたばなし	相模の家
		◎プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ
		◎サイエンス・セミナー「深海・相模湾八景を訪ねて」	講堂
		水辺の楽校生きもの調べの会	野外
18	水	民俗探訪会	館外・小田原市
		裏打ちの会	科学室
19	木	展示解説ボランティアの会	館外研修
20	金	古文書講読会	講堂
		お囃子研究会	講堂
21	土	星まつりを調べる会	野外(雨天:科学室)
		地域史研究ゼミ	特研究室
		平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
22	日	地質調査会	科学室
		○平塚の遺跡を歩く	野外(雨天中止)
26	木	石仏を調べる会	特研究室
27	金	古文書講読会	講堂
		◎星を見る会	屋上・科学室
28	土	○考古学入門講座	講堂

2	水	☆寄贈品コーナー「民俗」~1月7日(木)	寄贈品コーナー
3	木	展示解説ボランティアの会	講堂
4	金	古文書講読会	講堂
5	土	☆プラネタリウム「2010年の天文現象」 ~1月31日(日)	プラネ
6	日	地質調査会	野外(雨天:科学室)
		平塚の古代を学ぶ会	講堂
10	木	石仏を調べる会	特研究室
11	金	古文書講読会	講堂
		古代生活実験室	科学室
12	土	☆地域速報展「相模国府の発掘調査」 ~1月24日(日)	特別展示室
		地質調査会	特研究室
		天体観察会	館外(月光天文台)
13	日	水辺の楽校生きもの調べの会	野外
		○体験学習「お飾りを作ろう」	講堂
16	水	民俗探訪会	特研究室
		裏打ちの会	科学室
17	木	展示解説ボランティアの会	講堂
		お囃子研究会	講堂
19	土	地域史研究ゼミ	特研究室
		平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
20	日	◎ようこそ考古学「地域速報展」	特展室・講堂
		◎ろばたばなし	相模の家
		相模川の生い立ちを探る会	科学室
		星まつりを調べる会	特研究室

☆: 展示、プラネタリウム ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

プラネタリウム一般投影

☆「月へ行こう!」

投影日: 10月3日(土)から11月29日(日)までの
土・日曜日の午前11時~午後2時
観覧料: 100円(中学生以下無料) 定員86名

寄贈品コーナー

☆企画展示「深海・相模湾に潜る」

期間: 10月31日(土)~1月31日(日)
場所: 1F 寄贈品コーナー及び2階情報コーナー
共催: 海洋研究開発機構

◎サイエンスセミナー: 「深海・相模湾八景を訪ねて」

日時: 11月15日(日) 午後2時~4時30分
場所: 博物館講堂
参加: 自由

自由参加行事

◎「プラネタリウムで宇宙を学ぶ会」

そしてアインシュタインの相対性理論へ
日時: 11月15日(日) 午後3時30分~午後4時30分
場所: プラネタリウム(参加自由)

◎ろばたばなし

民家のいろいろばたで昔話を聞いてみませんか。
日時: 11月15日(日) (1)午後1時20分~ (2)午後3時~
場所: 展示室1F 民家(参加自由)

◎星を見る会「月と木星を見よう」(雨天、曇天中止)

望遠鏡で月と木星を観察します。
日時: 11月27日(金) 午後7時~午後8時30分
場所: 博物館屋上・科学室(参加自由)

参加申込受付

◎平塚の遺跡を歩く「南原・中里の遺跡」(雨天中止)

南原・中里地区を歩いて遺跡を見学します。
日時: 11月22日(日) 午前10時~午後3時
場所: 南原・中里地区
申込: 往復はがきに住所・氏名・電話番号を記して申込み。
11月16日必着。
定員: 20人(多数の場合抽選)

◎考古学入門講座「城の考古学」

考古学の基礎知識と最新の情報について講義します。今年度のテーマは「城の考古学」。

日時: 11月28日(土) 午後2時~3時30分
講師: 栗山雄揮(平塚市博物館)
場所: 博物館講堂
申込: 往復はがきに住所・氏名・電話番号を記して申込み。
11月20日必着。
定員: 80人(多数の場合抽選)

◎体験学習「お飾りを作ろう」

お正月の一文飾りや輪飾りなどを作ります。
日時: 12月13日(日) 午後1時30分~4時
場所: 博物館講堂
申込: 往復はがきに住所・氏名・電話番号を記して申込み。
12月4日必着。
定員: 30人(多数の場合抽選)